

◇遂に破綻に至った日本長期信用銀行の国家管理への移行と銀行業界への巨額の資本注入体制の整備を柱とする金融再生策の発動を契機に、日本経済に暗い陰を落してきた不良債権問題と銀行の貸倒りによる信用収縮からの脱出に微かな光明が見え始めたものの、日本の将来に対する国民の不安は根強く、経済成長の牽引役である消費は大きく落込み今年度もマイナス成長が予測され、リストラや企業の倒産などにより失業率は史上最悪の水準に達し、依然として、好転の兆しが見出せない状態が続いています。日本と関係の深い東南アジアにもこれが波及し、好況を謳歌して来た米国経済も綻びを見せ始め、世界経済にも大きな影響を及ぼしかねない状況となっています。今更ながら両経済大国のグローバルな影響力の大きさと、日本の責任の重さを痛感させられます。

◇このような経済環境の下でも、会員各位のご支援により、将来に明るい希望を抱きながら、ニューガラスフォーラムの活動は順調に進捗しています。

◇既報の通り研究開発事業が定款に追加されたことにより、ニューガラスフォーラム事務局に研究開発部が誕生しました。初代部長には藤村寛（業務部長兼務）が就任しています。同部では、コンジュゲートマテリアル先導調査研究（CM プロジェクト）のほか通産省委託により本年度から開始した「高温融体物性測定評価技術の研究開発」、同じく本年度の補正予算により実施する「情報通信用光機能材料創製技術の研究開発」などを担当・推進しています。

◇CM プロジェクトの成果をベースに11年度からの実施を目指して、昨年度提案した大型国家プロジェクト「環境適合型高機能ニューガラス創製技術の研究開発」は、残念ながら採択されませんでした。このため、12年度の立上げを期して再挑戦することになり、提案内容の向上と研究開発実施体制の充実に注力する毎日が続いています。

◇10月初旬に開催のニューガラス大学院は、今年度も会員各社等から50名余の参加を得て、盛況の内に終了することが出来ました。

◇画期的なグレードアップを実現するガラスデータベース INTERGLAD New Version の海外PR・拡販のため、伊勢田企画部長が10月下旬、American Ceramic Society 秋季大会のポスターセッションに参加しプレゼンテーションを行いました。同学会参加者多数から、かなりの手応えを感じたようです。これからも海外PRを積極的に推進したいと考えています。

◇英語版の作成など、ホームページの充実作業は、翻訳などに会員のご協力を得て、着々と進めています。

◇事務所ビル1階にあるガラス博物館の一角を占めるニューガラスフォーラムのブースが一新されました。明るく楽しい展示となりましたので、是非、ご覧下さい。

◇この程、編集委員の吉田和昭氏が大阪大学教授にご栄転になり大賀裕一氏がバトンを受け継がれましたので紹介致します。（S.Y.）

編集委員（順不同）

（委員長）

尾坂 明義	岡山大学工学部生物機能工学科
秋山 良司	旭硝子(株)中央研究所材料解析グループ
安間 元哉	コーニングジャパン(株)静岡テクニカルセンター
田上 高志	日本板硝子(株)技術研究所
轟 眞市	科学技術庁無機材質研究所
川地 伸治	日本電気硝子(株)
北村 直之	大阪工業技術研究所光機能材料部 光材料物性研究室
栗原 和明	(株)富士通研究所無機・高分子材料研究部
新熊 義包	HOYA(株) R & D センター開発研究所
石川 敬郎	(株)日立製作所日立研究所
矢野 哲司	東京工業大学大学院無機材料工学科山根・柴田研究室
大賀 裕一	住友電気工業(株)横浜研究所線路研究部
山口 眞男	(株)ニューガラスフォーラム総務部

NEW GLASS Vol. 13 No. 4 1998 (Serial No. 51)

発行日	1998年12月1日
編集委員長	尾坂 明義
発行者	吉井 純行
発行所	社団法人ニューガラスフォーラム 〒105-0004 東京都港区新橋 3-1-9 日本ガラス工業センタービル 電話 03(3595)2775・ファクシミリ 03(3595)0255